＼ともに聞き、学び合おう！／

性差別の現実に学ぶ部会 公開講座

えっ、男女の和讃が統一されたの？なんで？

2020年に葬儀式和讃の男女の区別が廃止され、その理由として「教学的根拠が見いだせず、かえって誤解を生じさせる恐れがあります」（『真宗』3月号）と述べられています。そもそもなぜ男女の区別が制定されたのでしょうか…。

1972年「当派における葬儀並びに葬儀前後の行事は、古来より定まっているが、近時地方の慣習などにより、種々なる形式で行われている現状に鑑み、真宗の教義に基き、時代の要望に応え、葬儀の姿勢を正すため」（『真宗』6月号 原文ママ）と葬儀式制定の理由が述べられています。

伝統伝承されてきた儀式声明作法において、時代の価値観の影響を受けながら形成され「正しい」と受け継がれてきた中に、問い返す課題があるのでしょうか。私たち真宗大谷派は「男女両性で形づくる教団」というスローガンを掲げていますが、現状はどうでしょうか。性別を超えた本当の意味での平等を目指す、そういう 関係性をどう築いていくかを真宗門徒の一人としてともに考えたいと思います。より多くの方の参加をお待ちしております。

主催：九州教区 解放運動推進協議会
性差別の現実に学ぶ部会

2023 5/25木

13:30 受付 /14:00 開会 /15:50 質疑 /16:30 閉会

会場：真宗大谷派九州教務所/各支所/ZOOM 配信
福岡県久留米市西町540-1

参加費：¥1,000

参加申込：右QRコード、または教務所まで >>>>>>>>>>>>

参考資料：『女性史に学ぶ学習史料集』（東本願寺）＊お持ちの方はご持参ください

申込

申込締切 5/22

【講師】藤場芳子氏

金沢教区常讃寺副住職　元女性室スタッフ

「蓮如上人が書かれた『御文』を最近女性差別だと言う人たちがいるが、決してそうではありません。仏道を求める意思の弱さを表わすのであって、これには男性も含まれます。ですから男性もみな女人なのです」という話であった。…なぜ意志の弱さを表わすのにわざわざ「女人」の「性」としなければならないのだろうか。…劣った性質のものを譬喩として使うことによって二重に差別することになる。（中略）

「仏道を求める意志の弱さ」は男女共にある。否定できる人は恐らくいないだろう。だからこそこの手の法話に対して女性は反論できずにきた。…「女人性」という女性の属性（意志が弱い、嫉妬深いなど）が強調されればされるほど、「だから差別されるのだ」という差別意識を保持、増幅させてしまう。（『ジェンダーイコールな仏教をめざして』「女人性という差別」藤場芳子）

お問合せ：真宗大谷派九州教務所　☎ 0942-32-3056 / ✉ kyushu@higashihonganji.or.jp